



This is **AFS Effect**

異文化を体験し、世界とつながる。

AFS活動報告書 **2024**

ごあいさつ

AFS第1期の高校生が、日本から米国に出発したのは1954年。「第二次世界大戦を二度と起こしてはいけない」との思いで、世界に飛び出す夢あふれる高校生の交換留学が始まって70年、AFS日本協会は4万人余りの青少年をこれまでに世界に派遣、そして受け入れてきました。

しかし、今、残念なことに地球の様々な地域で戦争や内戦による分断が起きています。留学生を受け入れている最中にも留学生同士の国が敵味方になっています。「隣国への偏見や嫌悪感をなくし、大好きになるために一緒に教科書をつくろう」と帰国前にお互いの手を握り締めて語っていた留学生たちがいました。

留学生を受け入れる私たちボランティアにとって様々な考え方を持つZ世代の高校生と寄り添うことはそう簡単なことではありません。しかし、彼らが時に立ち止まり、悩みながらも笑顔を見せる瞬間、お世話をしてよかったと心底思います。高校生も大人も成長できる機会を与えてくれるのが異文化理解教育です。小さな島国ニッポンから世界の国々の人々と連帯できるAFS日本協会に是非、力を貸してください。



公益財団法人AFS日本協会
理事長 **加藤 暎子**

これからの未来をともに描くために 70周年記念式典・祝賀会を開催

AFS日本協会は2024年12月14日（土）に、日本での活動70周年を記念する式典と祝賀会をホテルグランドアーク半蔵門（東京都千代田区）にて開催しました。日頃からAFSを様々な形で支えてくださる多くの方々にご来場いただきました。

記念式典では、文部科学省および米国大使館から祝辞が贈られたほか、JAXA宇宙飛行士の米田あゆさん（2011年AFS年間派遣プログラム第58期生としてスイスに留学）からの特別ビデオメッセージが上映されました。また、AFSを長年支援してくださっている寄付者の方々への感謝も伝えられました。

式典後半には、AFSの交換留学プログラム経験者（留学生、教員、ボランティア）によるパネルディスカッションを実施。急速に変化する現代において「アクティブ・グローバル・シチズン」を育成するための異文化理解教育の必要性、意義、今後の課題、そして私たち一人ひとりが貢献できることについて考える有意義な機会となりました。

<https://www.afs.or.jp/70th-anniversary/>



記念動画を
ご覧いただけます

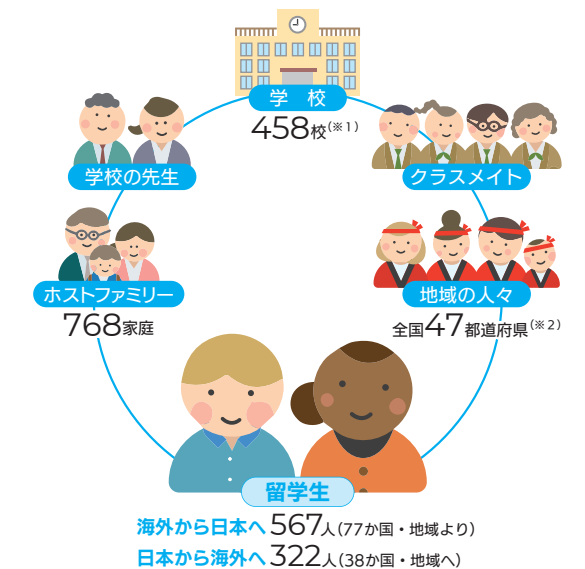


プログラムに関わるすべての人々の満足度向上をめざして

2020年のコロナ禍以降、AFS活動は順調に回復しています。2024年は日本の高校生265名が年間プログラムで37か国・地域へ渡航し、海外からは文部科学省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト+」を含む3か月以上の長期プログラムで合計で357名を受け入れました。その他にも、外務省「対日理解促進交流プログラム」や文部科学省補助事業「異文化理解ステップアップ事業」など、複数の政府補助・受託事業を実施しました。

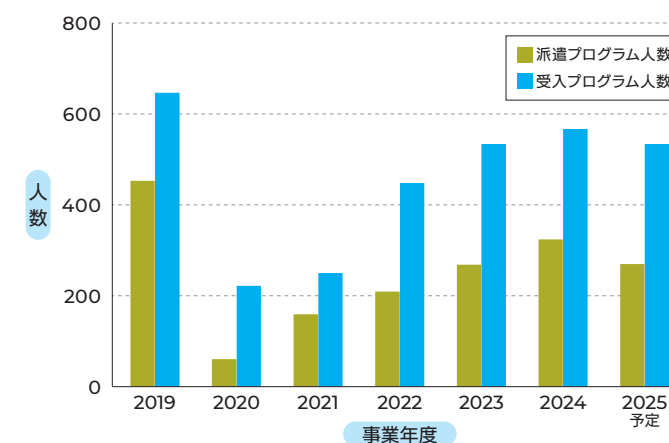
AFSの交換留学プログラムから学びを得るのは留学生だけではありません。留学生と接することで異なる文化や習慣に触れるホストファミリー、ホストスクール、そしてボランティアも、すべてプログラムの重要な参加者だとAFSは考えています。

AFS日本協会は、多様な価値観が存在する現代において、あらゆる年代の人々がより公正で公平、平和で持続可能な社会を築くために必要な能力を育み、協力し合えるよう、引き続き「体験」「学習」「実践」の機会を提供します。今後は事業規模の拡大だけでなく、各参加者の満足度向上に重点を置いた取り組みを進めてまいります。



2024年の実績値
※1：派遣生の在籍校または留学生受入校、および異文化理解活動で協働した高校の合計
※2：地域からの派遣または地域への受入のいずれかがあった都道府県の数

プログラム規模の推移



短期・セメスター・年間の各プログラムならびに補助・受託事業を対象に、母国から離れて異文化学習プログラムに参加した者を「参加者」として集計しています。2025年度は計画値です。

派遣・受入生の数（累計）

約 **44,000人**

派遣生 22,715 受入生 21,241

日本と交流実績のある国・地域数

派遣 52 受入 108

日本における最新の登録ボランティア数

1,500人⁺ (2024年12月現在)

※登録ボランティア以外にも、多くの学校、ご家庭、教育関係者の皆さま、有志の皆さまにご協力をいただいています（P6-7もご覧ください）

派遣事業

AFS Effect
— Sending Programs

AFSは、平和に貢献できる人材を育成したいという思いから、異なる文化や習慣と接する経験を提供しています。日本では、1954年に8人の日本の高校生がAFS生としてアメリカに初めて派遣されて以来、約1年間の長期交換留学がAFSの主要な事業として成長してきました。

長期プログラムに参加する生徒たちは、ホストファミリーと共に生活しながら現地の高校に通い、文化・社会・人々への理解を深め、異文化交流を体験します。近年では寮滞在型のプログラムも開始されています。

1982年からは、より多様なニーズに応えるために短期派遣プログラムも企画し、中高生を対象とした語学研修やグローバル教育に重点を置いた短期派遣プログラムも展開し、これまで以上に多くの人々に、異なる人々や価値観と出会う機会を提供しています。

1954年から2024年まで途切れることなく続いている長期・短期派遣プログラムでは、これまでに計22,715名が52か国で異文化を体験してきました。これは高校生の交換留学事業としては国内最大規模であり、多様な分野で多くの人材を輩出しています。

2024年の実績

〈長期〉(約1学年間)

▶年間プログラム

36か国・地域へ265名を派遣



〈短期〉(3か月未満)

▶中国短期留学奨学金プログラム

23名を派遣

▶外務省「対日交流促進事業」

中南米3か国へ大学生24名を派遣

▶AFS Global STEM Academies

5か国へ10名を派遣



浅川 梓さんのレポートより
2024-2025年(71期)／パナマ派遣

勇気を出して留学して本当によかった

“私が一人でできることは多いと思っていたが実際はすごく少なくパナマでいろんな人に助けられた。学校に行くための送り迎え、部屋の用意、私がより良い留学生活を送るためにたくさんの人たちが私の見えていない部分からも支えてくれていた。日本でもパナマでもそれは同じで、本当に感謝の気持ちでいっぱい。”

自分自身も成長したと感じた。たくさん新しい人たちに会った。異文化に触れ積極的に現地の人々や同じパナマ留学生と一緒に過ごすことで様々な価値観や考え方に会い物事に対しての見方の多様性に気付くことができた。

また、留学したことで、自信が付きポジティブになることができた。留学

先の学校で討論会のような時間があつた時、私は初めてクラスメイトの前で自分の考えを話した。怖かったが終わった後「私も同じ考え」など言ってくれて自分の考えを持つことの大切さを学んだ。何事もまず緊張するのは当たり前で、やってみることが大切だ。

10か月間の留学を通して留学する前には無かった感性を持つことができた。勇気を出して留学して本当によかったなと思い、今ではまたパナマに行きたいと思うほど。

パナマで出会えたすべての人やファミリー、友達、また日本でずっと応援してくれた家族、友達、AFSの皆様、AFSボランティア奨学金をくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。”



佐々木 啓予さんのレポートより
2024-2025年(71期)／インドネシア派遣

留学から得た経験は一生の宝物

“インドネシアでの10か月の生活を終えて、今の気持ちを一言で表すと「感謝」です。住み慣れた日本を離れ、母国語の通じない異国で暮らすには、自分の努力だけでなく、周囲の人々の支えが不可欠でした。AFSの高校生年間プログラムは、多くのボランティアの方々のおかげで成り立っており、私は常にその存在を意識しながら、感謝の気持ちを忘れずに過ごしてきました。文化や宗教、生活習慣の違いに直面する毎日は、新しい発見と学びの連続でした。特に、ラマ



ダンの期間をホストファミリーと過ごした経験はとても印象的です。断食を通じて精神的な自律を学び、宗教行事を家族と共有し更に家族や親戚の方との仲が深まりました。

また、現地の友人に加え、他国から派遣されてきた留学生とも深く交流することができたのは、大きな収穫でした。出身国や話す言葉は違っても、似たような悩みや夢を持っていることを知り、互いに励まし合いながら過ごした時間は、かけがえのない思い出です。多様な価値観に触れたことで自分自身の視野が大きく広がりました。

この留学を通じて得た経験は、私にとって一生の宝物です。支えてくれたすべての人への感謝の気持ちを胸に、これからも学び続け、異文化をつなぐ架け橋のような存在になれるよう努力していきたいと思います。Terima kasih, semuanya.”



生徒を支えるボランティア・ネットワーク

AFSは生徒ひとりひとりにLP (Liaison Person) を配置し、生徒の体験学習をサポートしています。LPは生徒からの相談に応じたり、話し合いの場を設定したり、必要に応じたさまざまな支援を行っています。現在、世界各地で約60か国・地域のパートナー組織がAFSのプログラムを運営していますが、生徒をサポートするしくみは各国共通です。LPを含めたAFSのボランティアは世界に3万人以上います。生徒と生徒に関わる人々が充実した体験を送れるよう、多くのボランティアが参加者をサポートしています。

(日本のボランティアの活動についてはP.8-9をご覧ください)



体験から得た学びを
活かす方法
いろいろあります

留学生を受け入れる

留学生をサポートする

AFS友の会に参加する

寄付をする

体験を「次」に生かす

日本におけるAFS活動は「この経験を自分だけのものにせず、後世につないでいかなければならない」という、初期の派遣生たちの熱い思いから発展しました。保護者、先生方、理念に共感してくださる方々が加わり、海外からの留学生の受入やサポート、出発前オリエンテーションの実施、新しい派遣先の開拓、国際交流キャンプなど、現在に続く多くの取り組みが生まれました。資金面で活動を支えてくださる方々も増えています。

Pick UP! AFS友の会

AFS友の会は有志の集まりです。AFSの活動に関心のあるすべての方を対象としてさまざまな催しを開いています。特に、各界で活躍するAFSerをはじめ、よりよい社会を築こうと行動されている方々を招いた講演は、新たな学びを得られる場として好評です。友の会の集まりは、どなたでもご参加いただけます。案内を希望される方は、AFS友の会事務局までお問い合わせください。

<https://www.afs.or.jp/category/tomonokai-reports/>

〈お問い合わせ〉AFS友の会 事務局 E-mail: tomo@afs.or.jp



受入事業

AFS Effect — Hosting Programs

日本での受入活動は1957年の夏に9人のアメリカ人高校生を日本の家庭や学校に迎えたことから始まりました。当初受け入れ先探しは派遣生たちが中心となって行いました。現在では派遣生や派遣生保護者を中心に、活動に関心を持つボランティア、学校の先生方、教育関係者が協力してホストファミリーやホストスクールを探し、異文化理解の輪が広がり続けています。

1957年から2024年までに、日本は世界各地108か国・地域から、合計21,241名の生徒を受け入れてきました。近年は政府補助・受託事業にも、アジア諸国や中南米との交流促進にも力を入れています。長期的にはアフリカ諸国との交流促進を視野に置いて、アフリカ各国・地域から来日する留学生の参加費支援を目的とした「AFS アフリカ奨学金」(AFS Japan Scholarship for Africa) を2024年に新設しました。

2024年の実績

〈長期〉

- ▶ **年間プログラム** (約1学年間)
41か国・地域から198名を受入
- ▶ **セメスタープログラム** (約半年間)
13か国より59名を受入
- ▶ **アジア高校生架け橋プロジェクト+** (約4か月間)
25か国・地域より100名を受入
※文部科学省補助事業



〈短期〉

- ▶ **語学研修プログラム** (約1か月間)
8か国より49名を受入
- ▶ **短期通学プログラム** (約1か月間)
3か国より8名を受入
- ▶ **日本文化・生活体験プログラム in 九州** (約3週間)
タイより16名を受入
- ▶ **異文化理解ステップアップ事業** (約1か月間)
13か国・地域より35名を受入 ※文部科学省補助事業
- ▶ **対日理解促進交流事業** (約1週間～10日間)
中南米33か国より78名、インドより24名を受入
※外務省事業

アハマドさんを受け入れた
ホストファミリーより

普通の日常が特別な毎日

“先週、台風のようにエジプト出身のアハマド君が母国に帰ってしまった。アハマド君と娘たちがどうでもいいことで吐きそうになるほどグラグラ笑っていた何でもない時間がもう二度と還ってこないのだと静かな時にこそ感じてしまうし、私はそういう光景を見ること、聞くことが幸せな時間だったのに、もうそれは叶わないことがやっとなった。

おっちょこちょいで、よくものを落とし、忘れものをして、みんなに心配や苦勞をかける。今日が帰国だという日も、うちに来て以来、欲しくてしょうがなかった購入したばかりの携帯電話をすっかり自分の部屋に置き忘れていった。

それでも、アハマド君の別れは、私たちは勿論、アハマド君に関わった人みんなを本当に本当に寂しくさせた。すごく愛した人と別れる時はこんな感じだ、というのがよくわかるような別れだった。

みんな本当に寂しく、すごくすごくアハマド君のことを愛していたのだ。AFS留学って、深く愛される体験なのだ、と改めて実感した。”



アハマド・ホッサムさんのレポートより
2024年にエジプトから来日

ぼくを色々助けてくれたみなさん ありがとう

中間レポート：“日本にきたときはラマダンでした、まいにちおみずもたべものもたべれないからたいへんでした。でもファミリーやLPがたすけてくれました。



ホストファミリーのいえに はじめて いったときは ほんとうにおもしろかったです。かれらは あらびあごをはなしませんし、わたしは にほんごをはなしません。でも、えい

ごでつたえあうことができました。はじめは むずかしいことがたくさんありましたが、にほんごができるようになると ころがつうじあえることがわかりました。”

帰国前レポート：“もうすぐ私の10かげつの留学が終わりです。私は日本でたくさんのことを経験しました。最初は日本語が話せなかったけどJSLでいっぱい勉強して最後に日本のラジオに出て生放送で1時間日本語だけで話しました。

ホストファミリーと学校の先生や友達やLPやAFSの人みなにかんしゃします。将来はエジプトと日本のためにがんばりたいです。ぼくを色々助けてくれたみなさんありがとうございました。”

アハマド君は複数のホストファミリーにお世話になりました。ご一緒くださった皆様、ありがとうございました。



留学生を通して異なる文化や習慣に接する ホストファミリー、ホストスクールも学びを得る

ホストファミリー



ホストファミリー経験者が語る

留学生を受け入れることで
得られたもの

文化の学習と交流

文化の共有

家族の拡大

適 応 性 違いを大切にすること

開 放 的 な 心 共 感 性

が向上した

ホストブラザーやシスターからは…「留学生との生涯にわたる友情」をあげる声も届いています。

“留学生に対して伝えづらいことも思い切って正直に伝えることで関係が改善され、絆を深めるということを経験し、家族としても成長させてもらった。”

“自国文化や言語についても気づきを与えてくれる面があり、今後の異文化交流にも役立つ経験”

“多様な国の多様な文化に触れ、肌で感じ、多様性を理解し受け入れるとはどういうことかをより深く考えることができました。また、日本国内でも文化の違いや対立があることを考えさせられました。”

AFSホストファミリー経験者を対象にした「Global Families, Global Impact」調査結果 (AFS国際本部、2023年) より
回答者数：3,266、回答者出身国：76か国
※日本からも383人の方が回答してくださいました

詳しくは
こちらからご確認
いただけます



ホストスクール



ホストスクールが語る

留学生を受け入れることで
得られたもの

新 し い 学 び

異 文 化 理 解 の 促 進

学 習 面 に お い て 良 い 刺 激

“身近に留学生がいることで、自分も留学したいという生徒が増えた。”

“留学したくても経済的な理由などで留学ができない生徒には絶好の国際交流の機会”

“日常の中に留学生がいる状況が、望ましい教育環境”

“異文化交流のよい機会となり、生徒の視野を広げることができた”



2018-2022年「アジア高校生架け橋プロジェクト」留学生受入高校を対象とした調査結果より
回答数：243校

詳しくは
こちらからご確認
いただけます



日本でのAFS活動70周年記念式典のパネルディスカッションでも学校・教育現場における異文化学習の課題や意義がテーマとなりました。P.10もご覧ください。

ボランティア活動

AFS Effect - Communities

AFSのボランティアはプログラムに関わる人たちをつなぎ、異なる文化や価値観を持つ人同士が互いに理解し尊重しあえる関係を育めるよう、さまざまな場面で力を発揮しています。

日本ではほとんどのボランティアが支部単位で活動し、生徒受入を実現するためのホストファミリーやホストスクールの開拓、派遣生・受入生・ホストファミリー・ホストスクールを対象としたプログラムに参加する際の心構えを築くオリエンテーションの実施まで、AFSが実施するプログラムを草の根で支えています。支部とは別に、医療やカウンセリングなど専門を生かしてサポートして下さるボランティアもいます。

また、多くのボランティアが研修や意見交換、定期的な会議を通して自らも学びを深め、高いスキルと責任感を持って活動に参加しているのもAFSボランティアの特徴です。

支部・地区

《全国 約60拠点で活動》

大学生ボランティア

《全国4拠点で活動》

支部活動に参加している学生も多数います

運営ボランティア

理事、評議員、監事など

専門職ボランティア

AFSのボランティアには、自己研鑽と学びを共有する多くの機会が用意されています

基礎研修「Foundations」

経験豊富なボランティアによるサポート

専門家による研修

支部間の支えあい・交流・意見交換

国を超えたボランティア研修



より多くの人が留学生との交流機会を得られるよう、またAFSの活動の輪を広げるため、多くの支部が交流会や小学校・中学校訪問などを企画しています。



受入プログラムで来日する生徒の到着オリエンテーション、帰国前オリエンテーション、派遣生の出発前オリエンテーションでは学生ボランティアも活躍しています。留学生と年の近い大学生の“お兄さん・お姉さん”が、高校生の成長を身近なところで見守っています。



地域と世界をつなぎ、安心して挑戦できる環境をつくりだすボランティア

「AFS活動に関わる理由や、活動を通して感じていること」

“世界中の方々と新たに知り合い、家族にも国内だけでなく世界へ視野を広げる機会を与えてくれる。”



“ボランティアでここまでやるのか！という驚きと同時に、ボランティアでこんなことまでできるんだ！という喜びが入り混じった日々を送っている。”

“サポートが多いときや難題が発生すると落ち込むこともあるが、素晴らしいボランティア仲間や成長した生徒たちとの関係を考えると、がんばる意欲が出てくる。”

“高校生でアメリカに留学した後、地元の高校で英語教員を務めた。在職中には何度か留学生の受け入れも担当し、在校生にとっては異文化に触れる機会が与えられたと思っている。10代で留学できる環境にない多くの若者に、少しでも、間接的にでも、異文化体験をしてもらえたらと願い、ボランティア活動を続けている。”

「参加生にとって最も大切だと思うことは？」

“色々な経験を通じて学び、成長すること、もしくは成長のきっかけをつかむこと。成功だけでなく失敗も含めて、気づきを得ること。”

“親身に話を聞いてくれる人がいると感じられること。自分の味方がいるという安心感を与えてあげること。”

“異国に行ってその国の人となるべくコミュニケーションを取り、多くの友人を作ることだ。そのことが世界平和への第一歩に繋がってほしい。”



支援の現場からは「新しい価値観に触れ、自分自身を発見し、成長すること」「心身の安全が確保されていること」が重要だという声が多く寄せられています。

AFSのボランティア活動は、異文化体験という機会の提供に留まらず、参加生が精神的に安定した環境で、積極的に人々と関わり、自己を成長させることを総合的に支援する活動であるといえます。参加生のサポートを通して社会にポジティブな影響を生み出し、より公正で平和な世界を築くための重要な役割を担っています。

活動の原動力 TOP 3

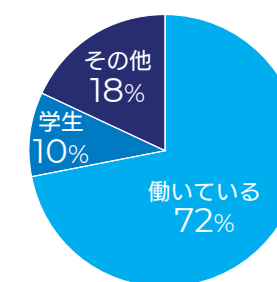
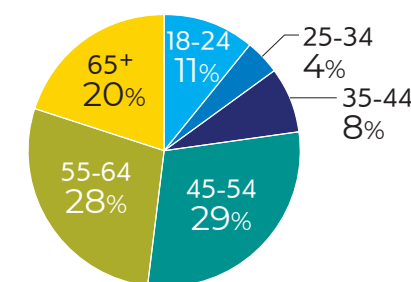
1. 人との関わりが生まれる・増える
2. 達成感がある
3. 自身の活動が評価される

“新しい人に
出会う”

“他の国の人々と
関わる”



さまざまな年代のボランティアが活動を支えています



ボランティアを対象とした調査 (AFS国際本部、2024年) より
日本からの回答数: 391

地域での交流を広げる取り組みのほとんどが、支部への寄付で成り立っています。より多くの人が異文化学習機会を得られるよう、支部への寄付もご検討ください。詳しくはP.13をご覧ください。



AFS JAPAN 70周年 記念式典・祝賀会

70th Anniversary

AFS日本協会は2024年12月14日（土）に、日本での活動70周年を記念する式典と祝賀会をホテルグランドアーク半蔵門（東京都千代田区）にて開催しました。

記念式典では、文部科学省および米国大使館から祝辞が贈られたほか、JAXA宇宙飛行士の米田あゆさんからの特別ビデオメッセージが上映されました。

パネルディスカッションでは、AFSが実践する「アクティブ・グローバル・シチズン」育成の取り組みをもとに、実際にプログラムに参加した経験のある留学生、教員、ボランティアが、それぞれの視点から異文化学習の意義や必要性を語り、今後への提案を話し合いました。

会場にはかつてAFSプログラムに参加した派遣生や受入生のほか、寄付で事業を支えてくださっている方々、ホストファミリーやボランティアの方々もご参加くださり、あちらこちらで国や世代を超えた交流の輪が広がりました。

アクティブ・グローバル・シチズンは特定の知識やスキル習得に依るものではなく、人間としての成長における様々な側面を包括する、全人的な性格をもつものです。AFSは様々な年代の人がアクティブ・グローバル・シチズンとして必要な能力を育めるよう、あらゆるプログラムで「体験」「学習」「実践」の機会を提供しています。



JAXA宇宙飛行士 米田あゆさん 動画メッセージ（要旨）

高校生の時にAFSを通して、スイスで1年間の留学を経験させていただきました。異文化体験は私たちに自分の当たり前を見つめ直す機会を与えてくれます。それぞれの違いを理解し、受け入れ、その中で互いに協力する力を養う経験は、私が今、宇宙飛行士として取り組む活動にも大きな影響を与えています。同じ宇宙飛行士の中に、AFS出身者がいたことも印象的でした。AFSが広げた輪は、地球だけではなく、宇宙にも届いているのかと思うと、とても嬉しく思います。

1969年にアポロ11号が人類で初めて月面に降り立ってから50年以上がたち、再び人類は月面を、そしてそのさらに遠くの火星を目指しています。人類が新たな挑戦に臨むことができるのは、これまでの宇宙開発、そして国際協力の賜物であり、それぞれの国が強みを出し合い、文化や言葉の壁を越えて協力することで実現しています。

異文化に触れる経験は、他者の視点を理解しようと努力するきっかけになり、また自分自身が持つ偏見や固定観念に気づく機会にもなります。これにより、社会の分断を生むのではなく、共通の目標に向かって互いに協力していく、そういった架け橋を築いていくのではないのでしょうか。AFSが未来を切り開く学びの場として、これからも多くの若者たちに勇気と希望を与え続けることを願っています。（米田あゆさんは2011年AFS年間派遣プログラム第58期生としてスイスに留学されました。）

パネルディスカッション（要旨）



「私がこのような人生を歩んでいる原点は、まさにAFSにある」「奨学金を受給できていなければ、今、私は、どこにいるかも想像できない。AFSでの経験は私の人生のターニングポイントだ」「この世界には2つの家族、2つの居場所がある。機会も2倍に増えた。将来は怖くないという意識を持った」「受け入れてもらう体験と受け入れる体験の双方が揃って、はじめてグローバルであるといえるだろう」「子どもに関わる大人がしっかり世界を見ているかどうか。大人が国際化・グローバル化していかないと、若者の内向き志向の正体はつかめないのではないか」



詳しくは、WEB特設サイトをご覧ください



来賓を含めた各国からの参加者のため、パネルディスカッションはAIによる同時翻訳を会場内に放映しました。



AFS日本協会は活動に多額のご支援をくださった個人、企業・団体の方を表彰する制度（※）を設けました。第1部では、ご支援の累計額により受賞対象となられました方々を表彰させていただきました。

※寄付者表彰制度について：
ご支援の累計額によりご案内を申し上げます。詳しくはWEBサイトをご覧ください。<https://www.afs.or.jp/donate/privilege/>

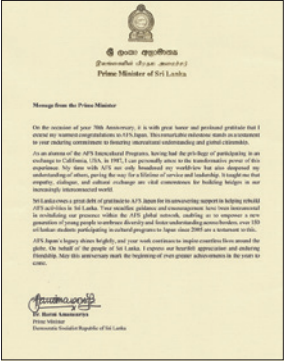
支援者の皆様より温かいお言葉をいただきました。

敬称略でご紹介させていただきます。

昨今の世界情勢を鑑みて、AFSの果たす役割はますます重要になってくると思案いたします。AFS帰国生たちが異文化を理解し、多様な価値観を受け入れ、日本や世界で平和の架け橋となって活躍されることを祈念すると同時に、AFSの益々のご発展を祈念しております。 (三菱商事株式会社)	私たちの奨学金制度は、高校生の方々が未来への一歩を踏み出し、夢の実現に向けた力強い後押しとなることを願って設けられたものです。 この制度を通じて、多様な文化や価値観に触れ、広い視野を育むお手伝いができることを誇りに思います。 これからも、次世代を担う若者たちが自分らしく輝き、力強く未来を切り開いていけるよう、AFSの皆様とともに全力で支援してまいります。 (日本ビジネスシステムズ株式会社)	AFS日本協会様が70年に亘り、多くの学生に異文化交流の機会を提供し、国際的な視野を広げることを支援して来られました。その貢献に深い感謝と敬意を表します。今後もAFS日本協会様の活動が一層の発展を遂げ、日本の学生に希望と可能性を与え続けられますことを心より願っております。 最後にAFS日本協会様の活動は、国際交流において重要な役割を果たしています。今後も私たち東海東京財団は、AFS日本協会様の活動を支援し、共に未来に向けて歩んでいきたいと考えております。 (一般財団法人東海東京財団)
---	---	--



各国大使館からいただいている応援メッセージを展示



スリランカ首相（AFSプログラムでアメリカに留学）からの祝賀メッセージ



AFSによって生まれた「家族」の絆を、写真とエピソードの展示で多数ご紹介しました



会場入り口では各国パートナーから届いたメッセージも放映しました



2024年度 事業・決算報告

Business and Financial Report

1. 資産の状況

(2024年12月31日現在)

(単位：千円)

流動資産	592,777	流動負債	250,605
固定資産計	621,760	固定負債	48,163
基本財産	359,605	負債合計	298,768
特定資産	247,652	正味財産	915,768
その他固定資産	14,503		
資産合計	1,214,537	負債及び正味財産合計	1,214,537

2. 損益の状況

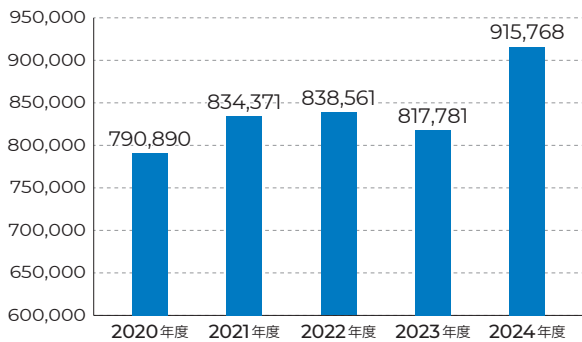
(単位：千円)

経常収益計	1,270,827	経常費用計	1,174,305
		経常増減額	96,522
		経常外増減額	0
		一般正味財産増減額	96,522
		指定正味財産増減額	1,466
		正味財産増減額	97,988
		正味財産期末残高	915,768

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがあります。

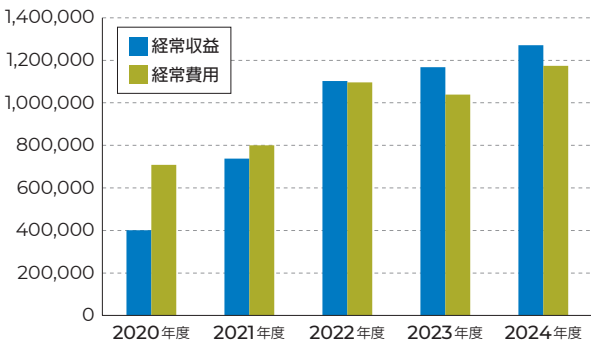
〈正味財産の推移〉

(単位：千円)

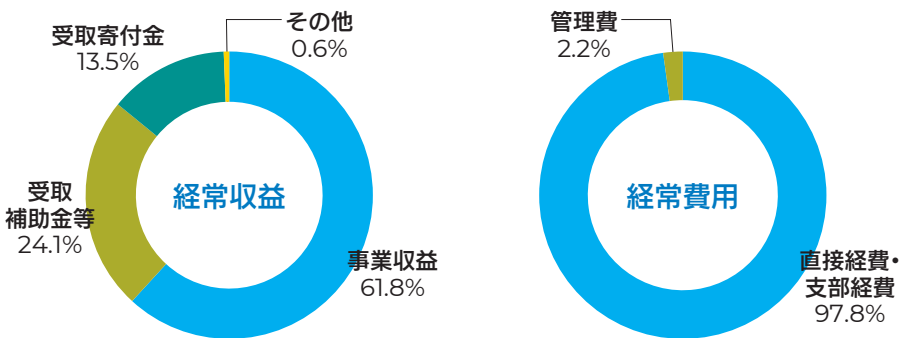


〈経常収益・経常費用の推移〉

(単位：千円)



〈経常収益・費用の内訳〉



直接経費：募集・選考、研修、留学生支援、渡航費、奨学金支給、受入国経費、国際本部経費他

管理費：ITシステム管理費、地域活動支援費、研修活動費、広報・募金活動費、人件費、オフィス賃料、光熱費他

3. 特定資産の活用状況

〈寄付受付中の基金〉

奨学金名	奨学金支給額 (一人あたり)	年度末残高 (円)					2024年度 支給決定数
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
AFS ボランティア奨学金	50万円	7,457,012	7,235,012	6,000,012	4,293,012	2,794,012	派遣：2
AFS どころ奨学金 ^{※1}	50万円	5,155,334	5,840,334	6,567,334	6,046,334	5,644,334	派遣：2 受入：1
AFS 山形ふるさと奨学金	50万円	4,020,000	4,140,000	4,260,000	3,770,000	3,880,000	0
赤羽恒雄博士記念ながの奨学金	100万円	—	—	5,192,979	5,095,879	4,095,879	派遣：1
AFS ひろしま奨学金	50万円	584,726	594,726	104,726	119,726	142,726	0
NEXT50 奨学金	100万円	780,575	1,710,575	2,246,575	1,616,473	1,155,473	受入：1
YOSHI 基金	プログラム参加費全額 (概ね270万円)	14,576,048	14,733,548	10,943,496	8,743,737	8,899,737	受入：1

※1：「AFS どころ奨学金」は、2026年より派遣生のみ支給対象となります。

〈寄付受付を終了した基金〉

奨学金名	奨学金支給額 (一人あたり)	年度末残高 (円)					2024年度 支給決定数
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
AFS 平和の鳩プロジェクト ^{※2}	プログラム参加費全額 + 留学準備金30万円	48,746,298	40,046,298	29,046,298	19,746,298	2,151,598	2023年度の支給決定 (2024年派遣) を もって終了
AFS 岐阜つながる奨学金 ^{※3}	20万円	—	—	—	10,000,000	7,800,000	派遣：11
AFS トルコ震災復興支援奨学金	基金全額	—	—	—	1,091,230	0	受入：1
AFS 災害支援金 ^{※4}	一律7万円	—	—	—	—	1,445,303	該当者なし

※2：「AFS 平和の鳩プロジェクト」は2024年派遣生への支給をもって終了しました。基金残は規程に基づきAFS年間派遣プログラムの継続のため活用いたします。

※3：「AFS 岐阜つながる奨学金」は故人の遺志に基づいて運用されている奨学金です。本奨学金へのご寄付は受け付けておりませんが、同様の取り組みにご関心のある方は広報募金室までお問い合わせください。

※4：「みちのく応援奨学金」の趣旨を受け継ぐ奨学金で、日本国内の自然災害の被害を受けたAFS生の留学費用を援助します。年間派遣プログラムが対象です。「みちのく応援奨学金」は東日本大震災ならびに福島原発事故により被災した地域のAFS年間プログラム参加生を対象とした奨学金で、2012年から2020年まで16名のプログラム参加を支援しました。

〈ご参考〉現在の派遣プログラム参加費

アメリカ	230万円
スイス・カナダ・ニュージーランド	210万円
欧州 (スイスを除く)	180万円
アジア・中南米	140万円

+ 査証取得費 (大使館までの交通費、指定病院での健康診断作成費など)、海外保険加入費用、留学中の小遣い、事前事後のオリエンテーション参加交通費として50万円程度。

AFSは留学を志す生徒をサポートするため、奨学金の充実に努めています。十分ではありません。高い需要があるものの、年間の寄付合計額が支給合計額を下回る状況が続いている奨学金もあります。高校生への留学奨学金は、経済的な負担を軽減するのみならず、自身の挑戦を後押し、応援してくれるものとして、生徒たちの支えになります。引き続きのご支援をお願いいたします。

ご寄付を受け付けております

◇振込

- ・ゆうちょ銀行 O一九店 当座0610779
- ・AFS 寄付金口座 (00170 5-610779)

◇クレジットカード利用

支部への寄付、奨学金の支援ができます。
月々継続寄付もお手続きいただけます。

◇遺贈・相続財産の寄付

「高校生に留学の機会を提供したい」「次世代を応援したい」「AFS活動で最も必要とところに活用してほしい」など、未来に想いを
つなぐお声を多くいただいています。遺贈・相続財産のご寄付に
ご関心のある方は、お気軽にご連絡ください。
ご遺志に基づいて、想いを事業に活用させていただきます。

AFS ご寄付のお願い

検索

<https://www.afs.or.jp/donate/>



寄附金控除：AFS日本協会は特定公益増進法人です。
AFS日本協会への寄付は、所得税、相続税、法人税の
優遇措置の対象となります。

寄付のお問い合わせ・ご相談を承っています

広報募金室 bokin@afs.or.jp

ご支援に感謝申し上げます

Thank you for your support!

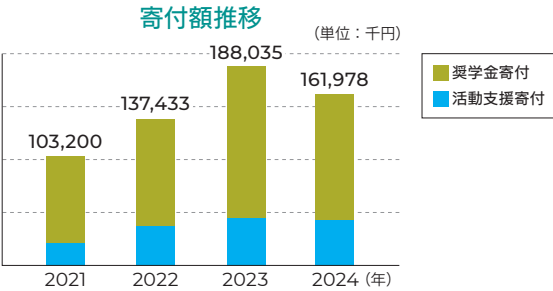
2024年度は、AFS活動全般を支える「AFS活動支援寄付」とあらかじめ使途をご指定いただく「奨学金寄付」に、計1億6,197万円のご寄付を頂戴いたしました（2024年1月1日～2024年12月31日）。

AFS活動支援寄付

2024年度はAFS活動全体へのご支援をお受けする「AFS活動支援寄付」に4,320万円のご寄付をいただきました。活動支援寄付は、草の根でAFSの教育事業を支えるボランティアの活動費をはじめ、全国支部と情報を共有するための基盤整備、よりよい体験を提供するための研修などに活用をさせていただいています。

奨学金寄付

2024年度はAFSのプログラムに参加する国内外の若者を支援する「奨学金基金」に計1億1,877万円のご寄付をいただきました。奨学金は、プログラム参加にかかる費用負担を軽減することで、優秀で意欲ある生徒の学びを支えています。プログラムに参加する高校生を増やすことで、生徒を支える周囲の人々にも学びの機会を拡げることにつながっています。



紺綬褒章への推薦

「紺綬褒章」は国の褒章制度のひとつで、公益のために私財（1回の寄付額が、個人500万円以上、企業・団体1,000万円以上）を寄付した方に授与されます。AFS日本協会は2023年9月に内閣府賞勲局より公益のために私財を寄付された個人・団体に授与される紺綬褒章の公益団体の認定を受けました。2024年は三菱商事株式会社が対象となり褒章の伝達と褒状をお渡しいたしました。

企業・団体による奨学金

多くの企業・団体がAFSプログラムを対象とした奨学金を設けてくださいました。（2024年）

対 象	奨学金名（※）	支援企業・団体
派 遣	イトーヨーカドースカラシップ	ITO FOUNDATION U.S.A.
派 遣	オデッセイIT奨学金	株式会社オデッセイ コミュニケーションズ
派 遣	高校生国際体験プログラム ※2026年派遣より募集	公益財団法人 公文国際奨学財団
派 遣	JBS海外留学奨学金	日本ビジネスシステムズ株式会社
派 遣	城西グリーンシュート奨学金	福岡城西ロータリークラブ
派 遣	ソニーグループ国際教育基金	ソニーグループ国際教育基金
派 遣	田口福寿会AFS留学生奨学金	公益財団法人 田口福寿会
派 遣	東海東京財団留学奨学金	一般財団法人東海東京財団
派 遣	長岡市米百俵財団 高校留学奨学金	公益財団法人長岡市米百俵財団
派 遣	新潟市国際交流協会高校生海外留学奨学金	公益財団法人新潟市国際交流協会
派 遣	三菱商事高校生海外留学奨学金	三菱商事株式会社
受 入	ジンテック奨学金	株式会社ジンテック
受 入	Mitsui Resources International Scholarship / Akito Sumibo Scholarship（※）	MITSUI RESOURCES PTY. LTD.
受 入	明治ブルガリア奨学金	株式会社 明治
受 入	奨学金プログラム（※）	インド三井物産

※：AFSパートナーへの寄付事業。現地組織とAFS日本協会が共同でプログラムを実施しています。

寄付者表彰 これまでに受賞された方々（賞別五十音順・敬称略、故人を含む）（2025年6月現在）

企業・団体

- 栄誉功労賞 三菱商事株式会社
- 特別功労賞 田中産業株式会社／一般財団法人 東海東京財団／日本ビジネスシステムズ株式会社
- 功 勞 賞 ホクセイプロダクツ株式会社

個人

- 栄誉功労賞
- 名誉功労賞 （WEB版では非開示とさせていただきます）
- 特別功労賞

功 勞 賞

以下の方々にも賞を贈呈させていただきましたが、ご希望により、賞の内容については非開示とさせていただきます。

株式会社オデッセイコミュニケーションズ／株式会社明治

（WEB版では個人名は非開示とさせていただきます）

寄付者芳名

寄付や助成、物品等で奨学金や活動をご支援いただきました。

ITO FOUNDATION U.S.A. / ソニーグループ国際教育基金／公益財団法人田口福寿会／一般財団法人東海東京財団／公益財団法人長岡市米百俵財団／公益財団法人新潟市国際交流協会／日本ビジネスシステムズ株式会社／福岡城西ロータリークラブ／三菱商事株式会社／株式会社明治／公益財団法人森村豊明会／Lucena Philanthropy

株式会社IHI／一般財団法人片山哲記念財団／株式会社クリーンテック／株式会社ジンテック／ホクセイ金属株式会社／ホクセイプロダクツ株式会社／株式会社ほくていホールディングス／AFS友の会

愛知学院大学／アイティーショップ尾道／あいはら医院／株式会社明石スクールユニフォームカンパニー／明石東ロータリークラブ／有限会社赤塚工業／株式会社アクシス／荒川レース工業株式会社／イオン北海道株式会社 イオン旭川駅前店／イオンリテール株式会社（尾道店／イオンもりの里店／イオンモールつくば）／株式会社いかりスーパーマーケット／医療法人石井会石井病院／NCカード株式会社／表千家 山下茶道教室／株式会社帯広公益社／株式会社カナイ／鹿沼グローバル・グループ／鹿沼市国際交流協会／河合石灰工業株式会社／公益社団法人京都鴨沂会／公文式三原宮浦教室／黒羽山大雄寺／香節庵茶道教室／国際ソロプチミスト新潟-西／茶寮いま泉／敷島堂ファイル／株式会社静岡新聞社／静岡放送株式会社／島工業株式会社／清水歯科医院／上毛電気鉄道株式会社／少林山達磨寺／株式会社新進／全国農業協同組合連合会栃木県本部（JA全農とちぎ）／相互電業株式会社／チャンピオンスポーツ／中部電力パワーグリッド株式会社／株式会社坪井塗工／栃木県糸東会空手道連盟・修道館鹿沼／NAO税理士法人／医療法人康和会 中沢クリニック／株式会社奈良クラブ／有限会社成田工務店／西脇医院／日本語教室なかま／日本耐酸塩工業株式会社／日本ハウズイング株式会社 大阪支店／株式会社ノブ／医療法人浜本内科／ハローインターナショナル／医療法人社団三思会ひかりクリニック／美容空間いち・び／株式会社ファンドクリエーション／ほしの歯科／星屋株式会社／一般財団法人北海道青少年科学文化財団／前橋商工会議所女性会／有限会社任田リース／丸屋仏壇店／明治神宮国際神道文化研究所／眼鏡工房・凜／矢橋ホールディングス株式会社／医療法人山下医院／有限会社ユア商事／湯河原珠算専修会／株式会社ワコールホールディングス

AFS岩手支部有志、AFS大分中部支部有志、AFS名古屋北支部有志、AFS27期、田原由美子他有志一同

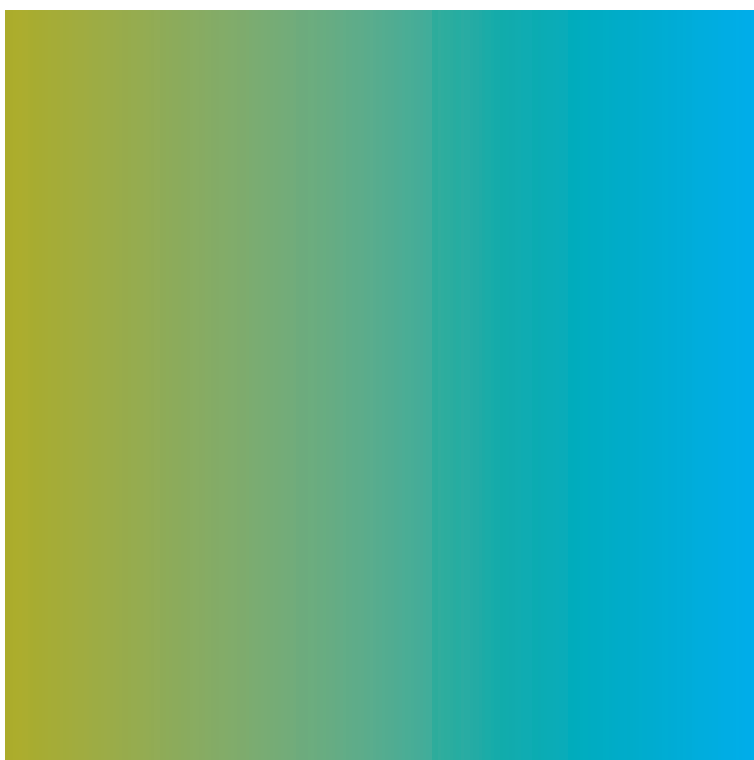
個人のみなさま 2024年1月～12月までの主な寄付者の皆さま（年間の寄付金総額が1万円以上の方）（敬称略）

（WEB版では非開示とさせていただきます）

海外からのご支援にも感謝申し上げます。（敬称略）

Thank you for your contributions to AFS Japan via donation through AFS International in 2024.

ご寄付をいただきました際のお名前でご表記しております。万一、記載に不備やお気づきの点がありましたら、誠に恐縮ですが広報募金室までご連絡ください。



AFS日本協会事務局からのお知らせは、主にメールでお届けします。住所・メールアドレスのご変更は右記QRコードまたは下記URLにアクセスいただき、ご連絡いただきますよう、お願いいたします。



<https://www.afs.or.jp/about-afs/connect/>

(AFSとつながる)

ホストファミリー、ボランティア活動にご関心のある方はお気軽にご連絡ください



公益財団法人
AFS日本協会
UNESCO オフィシャルパートナー

〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-18-16 虎ノ門菅井ビル6F
E-mail info@afs.or.jp

AFS日本協会

検索

www.afs.or.jp

@afs-japan @afs-japan @afs-japan AFS Japan

SUSTAINABLE DEVELOPMENT **GOALS**



AFSは「持続可能な開発目標(SDGs)」をサポートします。

AFSは、国連が2030年に向けて採択した「持続可能な開発目標(SDGs)・世界を変えるための17の目標」のうち、目標4と目標16の実現に向けて行動しています。

発行日 2025年7月31日
編集発行 公益財団法人AFS日本協会
デザイン・印刷 株式会社佐伯コミュニケーションズ